

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏 名	會津 桂子		
入学年度	平成 25 年度	学籍番号	13GG601
領 域	健康支援科学	分 野	老年保健学
審 査 委 員	主 査	西沢 義子	
	副 査	工藤 せい子	
	副 査	細川洋一郎	
	副 査	若山 佐一	

論文題目：看護学生のアセスメント能力向上のための教育介入

審査結果要旨：

本研究では、看護学生が臨地実習において既習の知識を統合活用できないという問題点に着目し、研究仮説を「学生の専門知識が構造化されると、アセスメント能力が向上する」とし、認知心理学の視点から知識を構造化させる教育介入を実施し、その効果を検証するために、2 つの研究課題について検討を行った。

研究課題 1 では 4 年制大学看護学生 3 年次生 17 名を対象に、看護学生の専門知識の構造化レベルとアセスメント能力について自由再生課題を用いて調査した。構造化の指標には ARCS (Adjusted-ratio-of-clustering-Subject) 得点を用いた。知識の構造化高群はアセスメントにおける看護問題の得点率が低群に比べ高かったことから、知識の構造化はアセスメント能力の向上に有効であることが示唆された。

研究課題 2 では臨地実習における看護過程展開未経験の 2 年次生を対象とし、知識の構造化を促進させるための関連図作成と自己学習を用いた個別教育介入を実施し、その有効性を検討した。知識の構造化レベルは、関連図課題の関連性を適切に捉えたリンク数を、アセスメント能力には、自作の評価表を用い、前後の調査に参加した 46 名について分析した。その結果、専門知識を構造化させることは、アセスメントにおける複数の情報を多面的に捉え看護問題を判断する能力を高めることが示唆された。

本研究結果では今後の看護教育において有用な新知見が得られた。また学位審査会での質疑応答は適切であり、論文の一部は Open Journal of Nursing, Vol5, No12, 2015 に掲載されており、博士（保健学）の学位論文に値する。

最終試験 平成 28 年 1 月 28 日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。